



2019.04.04新任教員研修



大阪府立大学
高等教育開発センター

データからみる府大・府大生の特徴

高等教育開発センター
畑野 快



—偏差値・就職状況・企業からの評価・学生の満足感—

データからみる府大の特徴



偏差値や就職状況、企業からの評価等

Benesse®
マイビジョン



価値ある大学2018年版～就職力ランキング～(日経キャリアマガジン特別編集)
(日経ムック)

著者：日経HR編集部
出版：日経HR
価格：980円(税込み)

データで見る
公立大学法人大阪府立大学

2018年9月

公立大学法人
大阪府立大学
高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～

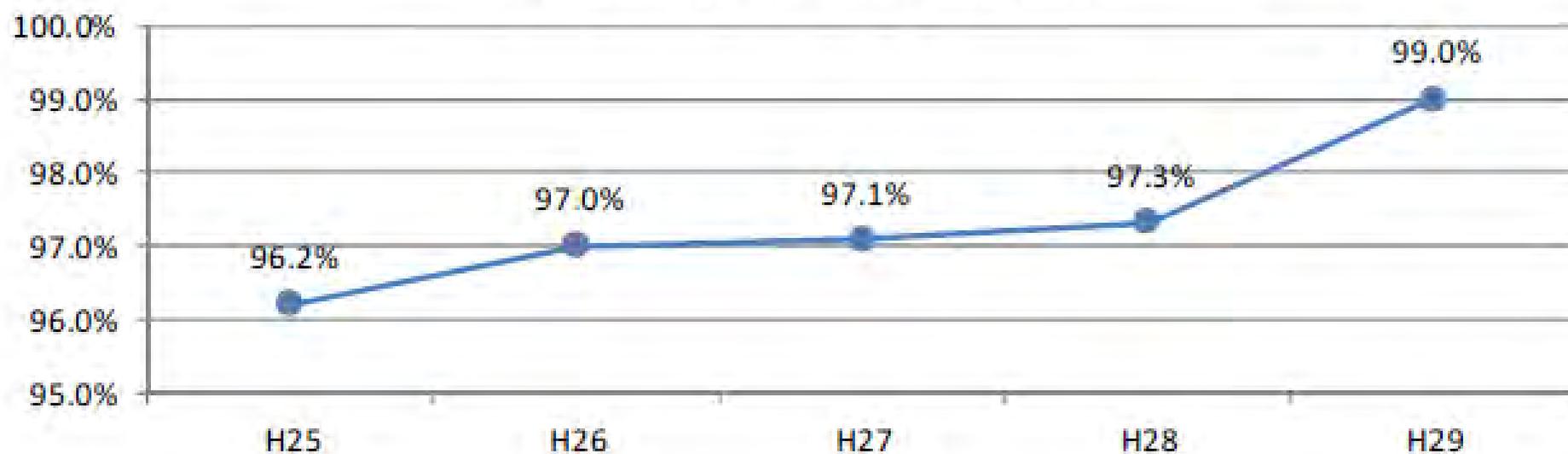
リクルート進学総研



偏差値	大学名(学部)
78	京都大(医-医)
77	京都大(法) 大阪大(医-医)
76	京都大(文) 京都大(経済-経済経営(文)) 京都大(教育-教育科(文)) 京都大(総合人間-総合人間(文))
75	京都大(薬) 大阪大(文) 大阪大(法)
74	大阪大(経済) 大阪大(人間科) 神戸大(医-医) 京都府立医科大(医-医) 大阪市立大(医-医)
73	京都大(総合人間-総合人間(理)) 奈良県立医科大(医-医) 和歌山県立医科大(医-医)
72	滋賀医科大(医-医) 京都大(経済-経済経営(理)) 京都大(教育-教育科(理)) 京都大(理) 京都大(工) 神戸大(法)
71	京都大(農) 大阪大(薬) 神戸大(文) 神戸大(経済) 神戸大(経営) 神戸大(国際人間科)
70	
69	京都大(医-人間健康科)
68	大阪大(外国語) 大阪大(理) 大阪大(工)
67	大阪大(基礎工)
66	大阪大(歯) 京都府立大(文) 大阪市立大(文) 大阪市立大(法)
65	神戸大(農) 奈良女子大(文) 大阪市立大(経済) 大阪市立大(商) 神戸市外国語大(外国語)
64	神戸大(理) 神戸大(工) 奈良女子大(生活環境-食物栄養) 大阪市立大(生活科-食品栄養科)
63	大阪大(医-保健) 神戸大(医-保健) 奈良女子大(生活環境-心身健康) 大阪市立大(生活科-人間福祉) 大阪府立大(現代システム科学域-マネジメント学類)
62	奈良女子大(生活環境-生活文化) 奈良女子大(生活環境-住環境) 京都府立大(公共政策) 大阪市立大(生活科-居住環境) 大阪府立大(現代システム科学域-環境システム学類)
61	大阪市立大(工) 大阪市立大(医-看護) 大阪府立大(生命環境科学域)
60	京都工芸繊維大(工芸科) 神戸大(海事科) 京都市立芸術大(美術) 大阪市立大(理)
59	奈良女子大(生活環境-情報衣環境) 京都府立大(生命環境) 京都府立医科大(医-看護) 大阪府立大(現代システム科学域-知識情報システム学類) 大阪府立大(地域保健学域) 神戸市外国語大(外国語2)
58	滋賀大(経済) 滋賀医科大(医-看護) 奈良女子大(理) 和歌山大(観光) 神戸市看護大(看護) 兵庫県立大(経済) 兵庫県立大(看護)
57	滋賀大(教育) 滋賀大(データサイエンス) 京都教育大(教育) 大阪教育大(教育) 和歌山大(経済) 和歌山大(教育) 滋賀県立大(人間文化) 滋賀県立大(人間看護) 兵庫県立大(経営) 兵庫県立大(環境人間) 奈良県立医科大(医-看護) 奈良県立大(地域創造) 和歌山県立医科大(保健看護)
56	兵庫教育大(学校教育) 奈良教育大(教育)
55	和歌山大(システム工) 滋賀県立大(環境科) 福知山公立大(地域経営)
54	兵庫県立大(工)
53	滋賀大(経済夜) 大阪教育大(教育夜) 滋賀県立大(工)



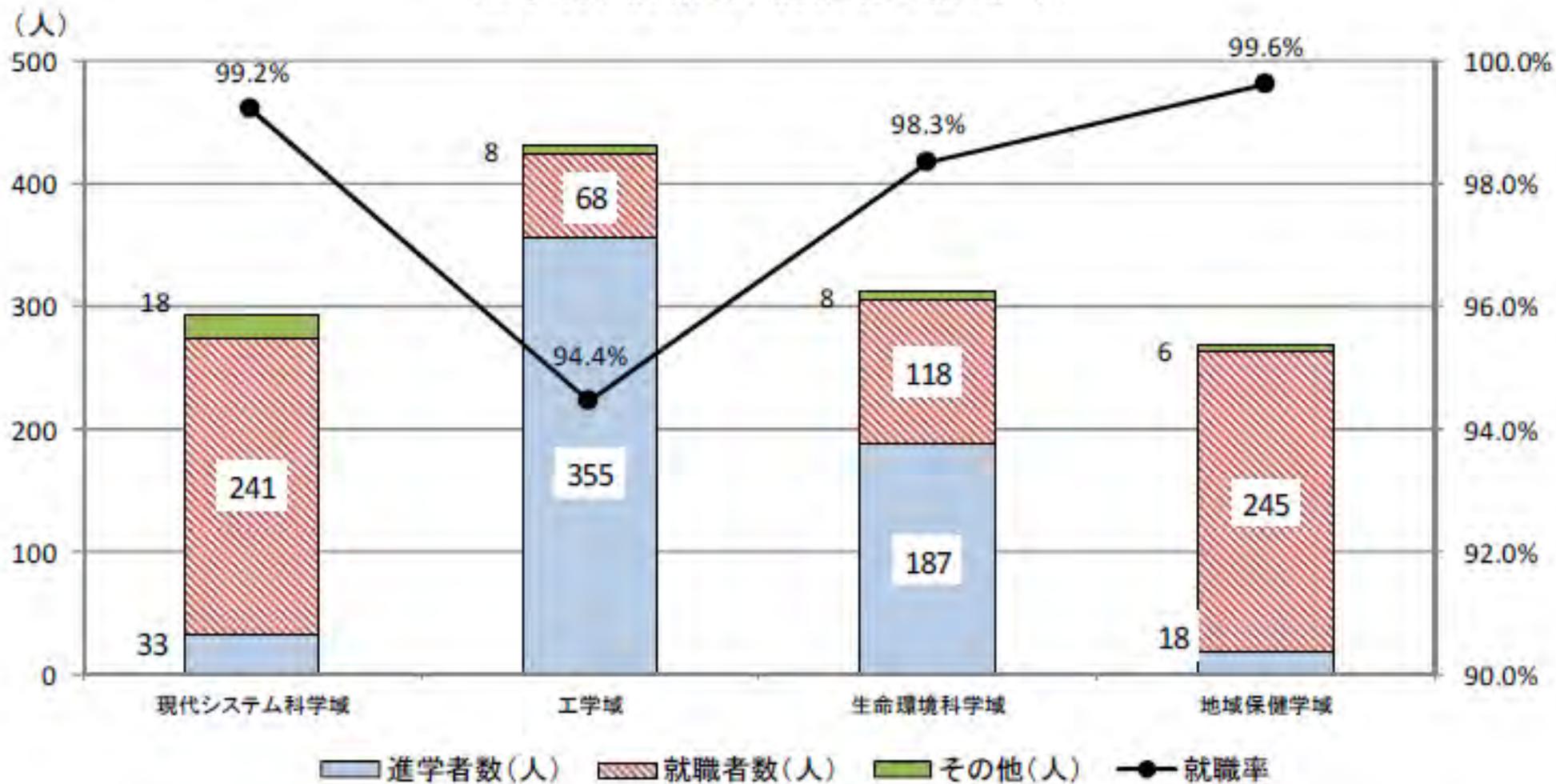
就職率(卒業者・修了者合計)



データで見る公立大学法人大阪府立大学 <https://www.osakafu-u.ac.jp/corporation/about/data/>



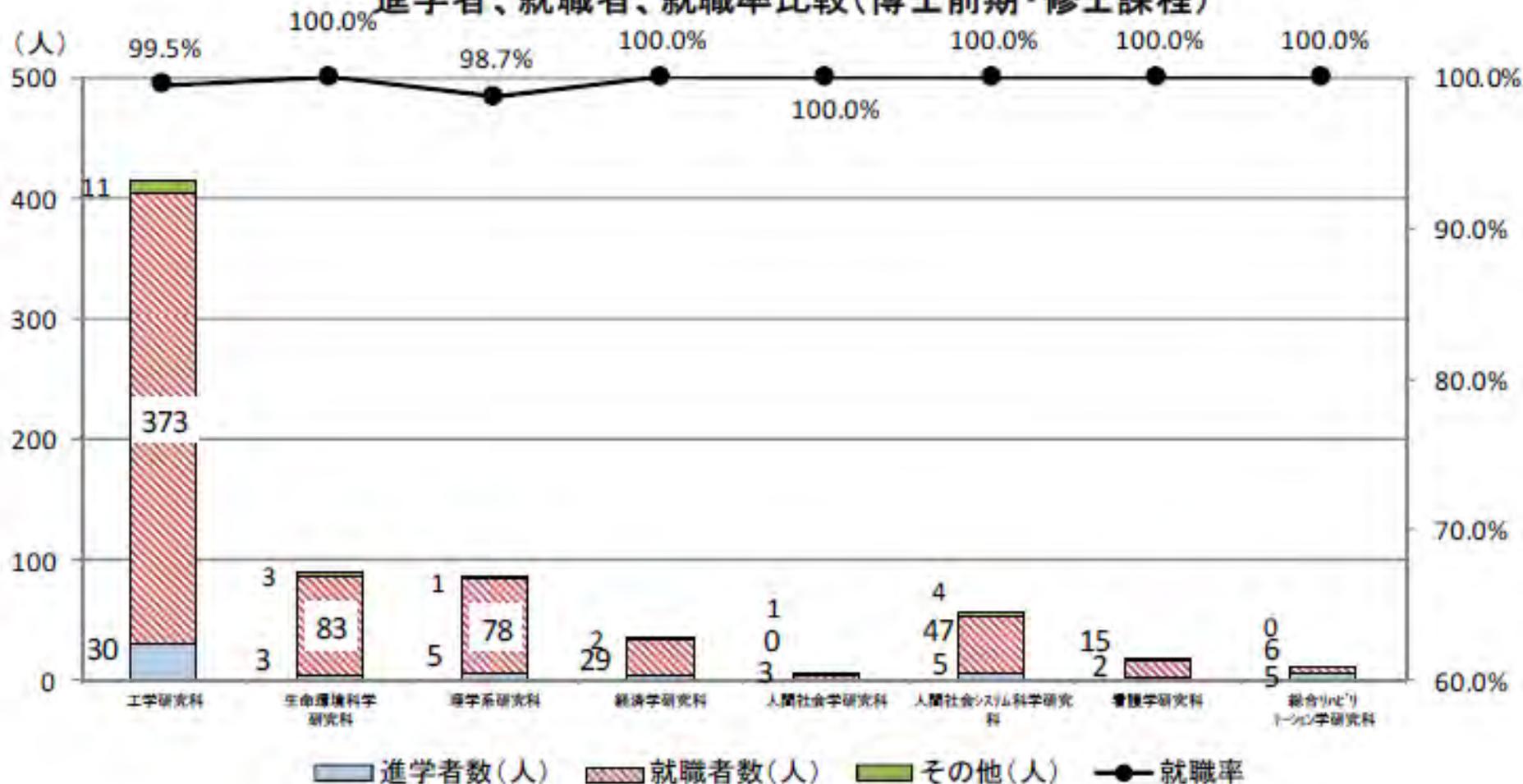
進学者、就職者、就職率比較(学域)



データで見る公立大学法人大阪府立大学 <https://www.osakafu-u.ac.jp/corporation/about/data/>



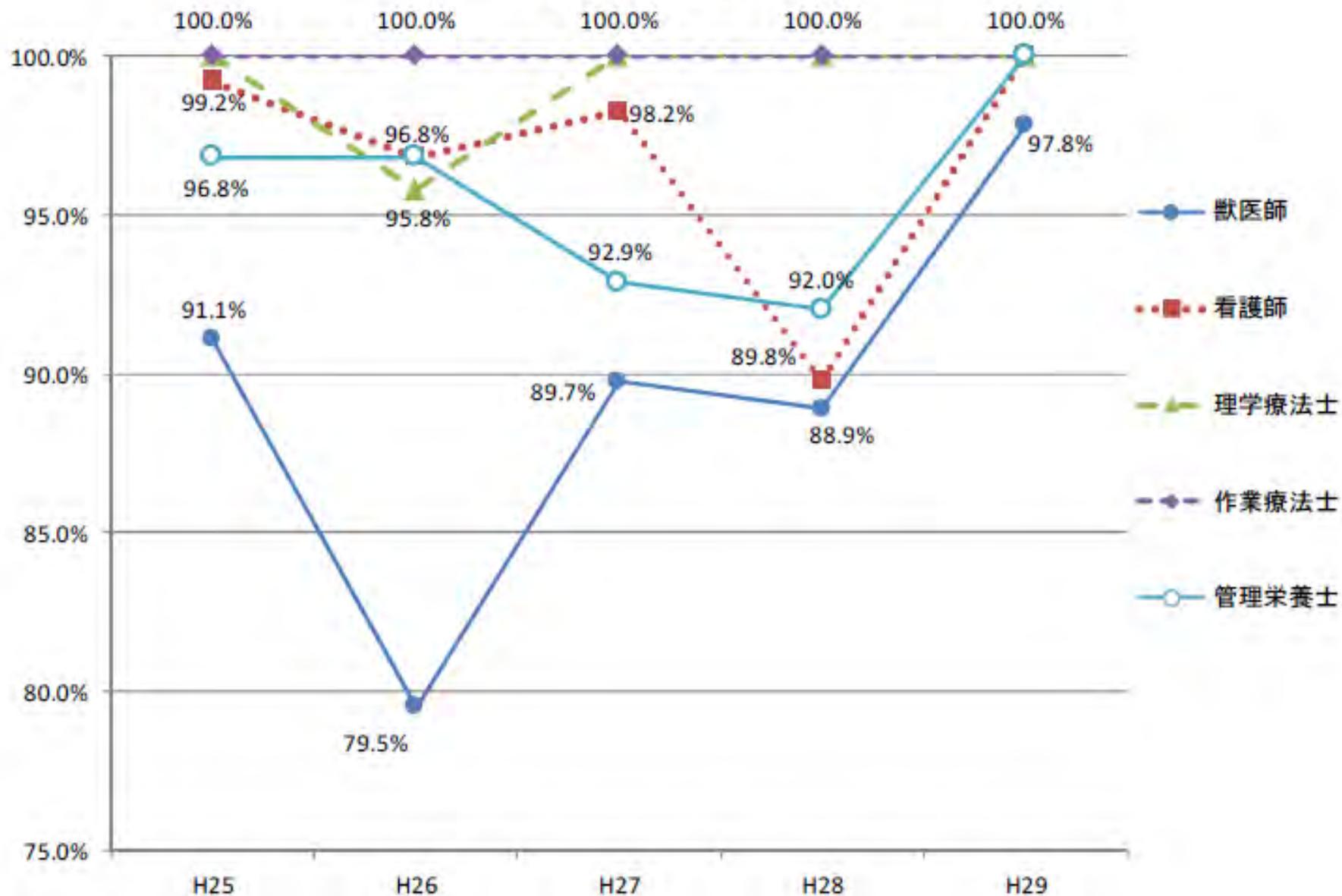
進学者、就職者、就職率比較(博士前期・修士課程)



データで見る公立大学法人大阪府立大学



国家試験合格率





キャリアサポート

「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査総合ランキング」で**公立大学1位**！

日本経済新聞（2017/6/7朝刊掲載）

日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが実施した大学イメージ調査の中で、「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査総合ランキング」において、大阪府立大学は**全大学中9位**、**公立大1位**となりました。

調査の詳細は、「価値ある大学2018年版」（日経HR）に掲載されています。



価値ある大学2018年版～就職力ランキング～
（日経キャリアマガジン特別編集）
（日経ムック）

- | | |
|-----|--------------|
| 1位 | 東京大学 |
| 2位 | 京都大学 |
| 3位 | 九州大学 |
| 4位 | 一橋大学 |
| 5位 | 慶応義塾大学 |
| 6位 | 早稲田大学 |
| 7位 | 横浜国立大学 |
| 8位 | 名古屋大学 |
| 9位 | 大阪府立大 |
| 10位 | 東北大学 |



リクルート進学総研 「進学ブランド力調査2017」で好評価！

2017年9月、リクルートの高等教育機関専門誌「カレッジマネジメント」で発表された進学ブランド力調査2017*において、大阪府立大学が「**理系女子志願度(関西)2位**」をはじめ、様々な項目でランキングされました。

項目	順位(昨年順位)
教育方針・カリキュラムが魅力的である	【全体】8位(20位)
教育内容のレベルが高い	【男子】7位(11位)
学習設備や環境が整っている	【女子】11位(26位)
学生の学力が高い	【全体】8位(10位)
卒業後に社会で活躍できる	【全体】10位(14位)
教養が身につく	【全体】9位(17位)
勉強するのに良い環境である	【全体】10位(12位)

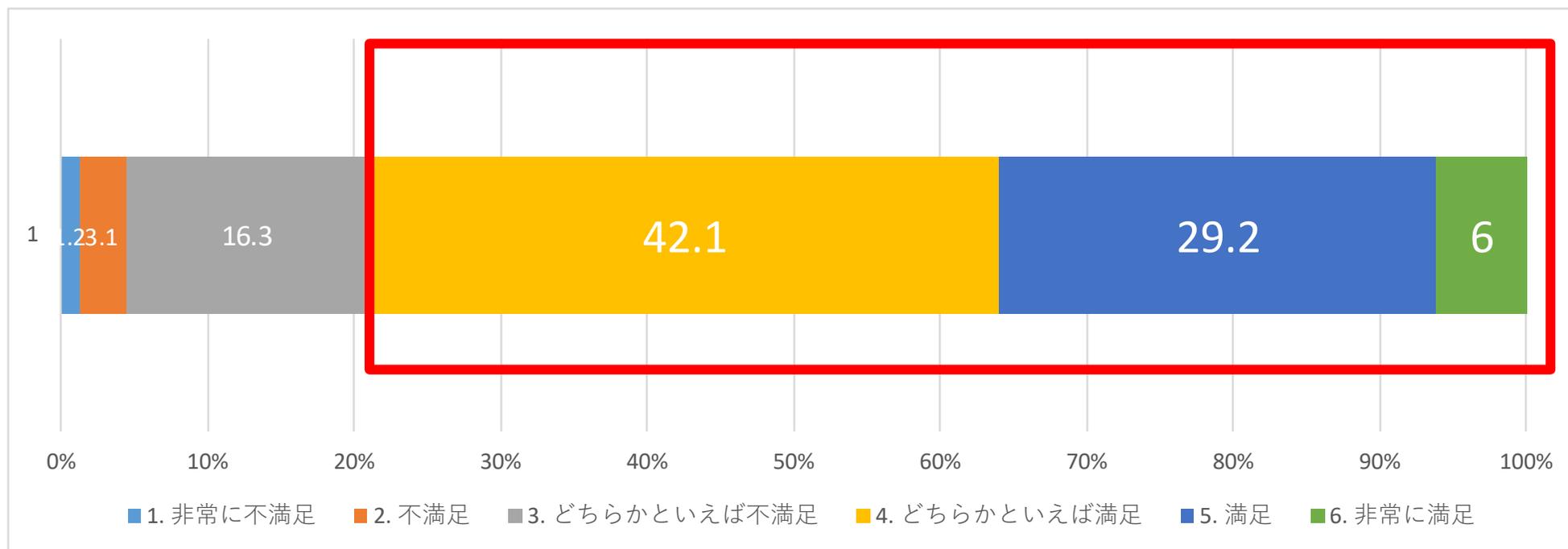
*高校生の大学選びの動向を明らかにするため、年に1回、高校3年生を対象として行っている調査。

調査の詳細は、リクルート進学総研のWebサイト「進学ブランド力調査2017」に掲載されています。



2017年卒業予定者アンケート結果 (n = 1128)

総合的にみて、本学の教育サービス全体に対してどれぐらい満足していますか。



- 卒業時のアンケート結果から約77%の学生が本学のサービス全体に対して総じて満足している傾向



これらの結果から見える府大の特徴

- 学力は関西の大学で中～上位
- 就職率、国家試験合格率は高い
- 企業側の府大生に対する評価は高い
- 高校生から見たブランドイメージがある
- 学生は教育サービスに概ね満足して卒業していく



学生調査の概要

データからみる府大生の特徴



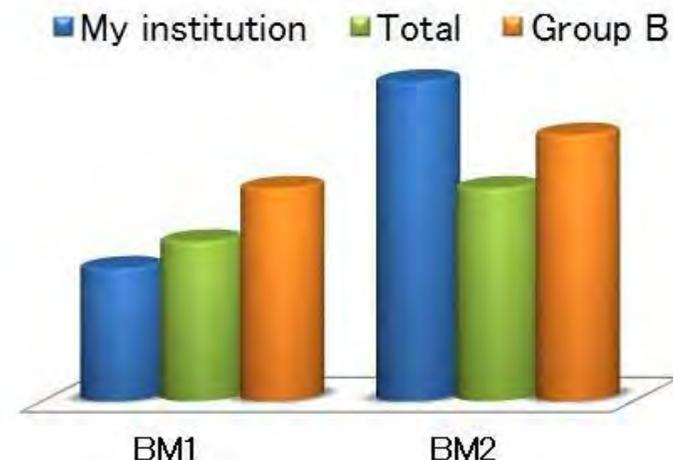
本学の学生調査

大学IRコンソーシアム
の共通調査を使用

種類	対象	実施時期	実施年度	調査方法	配布・回収方法
一年生調査	B1	毎年11月頃	2009～	質問紙	授業時間内 (必修科目)
上級生調査	B3	毎年10月頃	2011～	質問紙	授業時間内
卒業予定者アンケート	B4	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
修了予定者アンケート	M2	隔年2月頃	2008～	質問紙	研究室単位
卒業生調査	卒後5年	毎年8月頃	2014～	質問紙	郵送



大学IRコンソーシアムとは



共通の学生調査を使用

- 学生調査ネットワークの構築と活用
- 連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築
- IRネットワークを活用した相互評価と**ベンチマーキング**
- IR人材育成のためのワークショップ事業



学生調査の回収率

調査名	実施期間	平成26年度			平成27年度		
		対象者数	回答者数	回答率	対象者数	回答者数	回答率
一年生調査	H21年度以降毎年実施	1,332	1,178	88.4%	1,427	1,228	86.1%
上級生調査 (3年生)	H23年度以降毎年実施	1,442	1,212	84.0%	1,462	1,242	85.0%
卒業予定者 アンケート (4(6)年生)	H20・H23・H24・H26・H27年度 に実施	1,599	1,169	73.1%	1,322	1,166	88.2%
修了予定者 アンケート (博士前期 課程2年生)	H20・H23・H26・H27年度に実 施	718	526	73.3%	653	529	81.0%



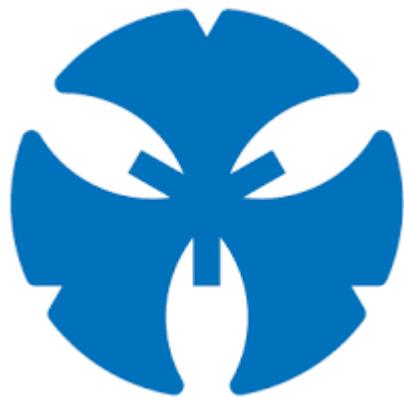
IRコンソーシアムのデータとの比較から

データからみる府大生の特徴



府大生の平均値とIRコンソーシアムの平均値の比較

- 使用したデータ: 2015年上級生調査
- 府大生: 1,100名前後
- IRコンソーシアム: 33,250名前後





主に活用してきた指標

• Q10: 能力の伸びに関する項目

- 入学した時点と比べて、能力や知識はどのように変化しましたか。
【5.大きく増えた 4.増えた 3.変化なし 2.減った 1.大きく減った】

• リテラシーに関する項目

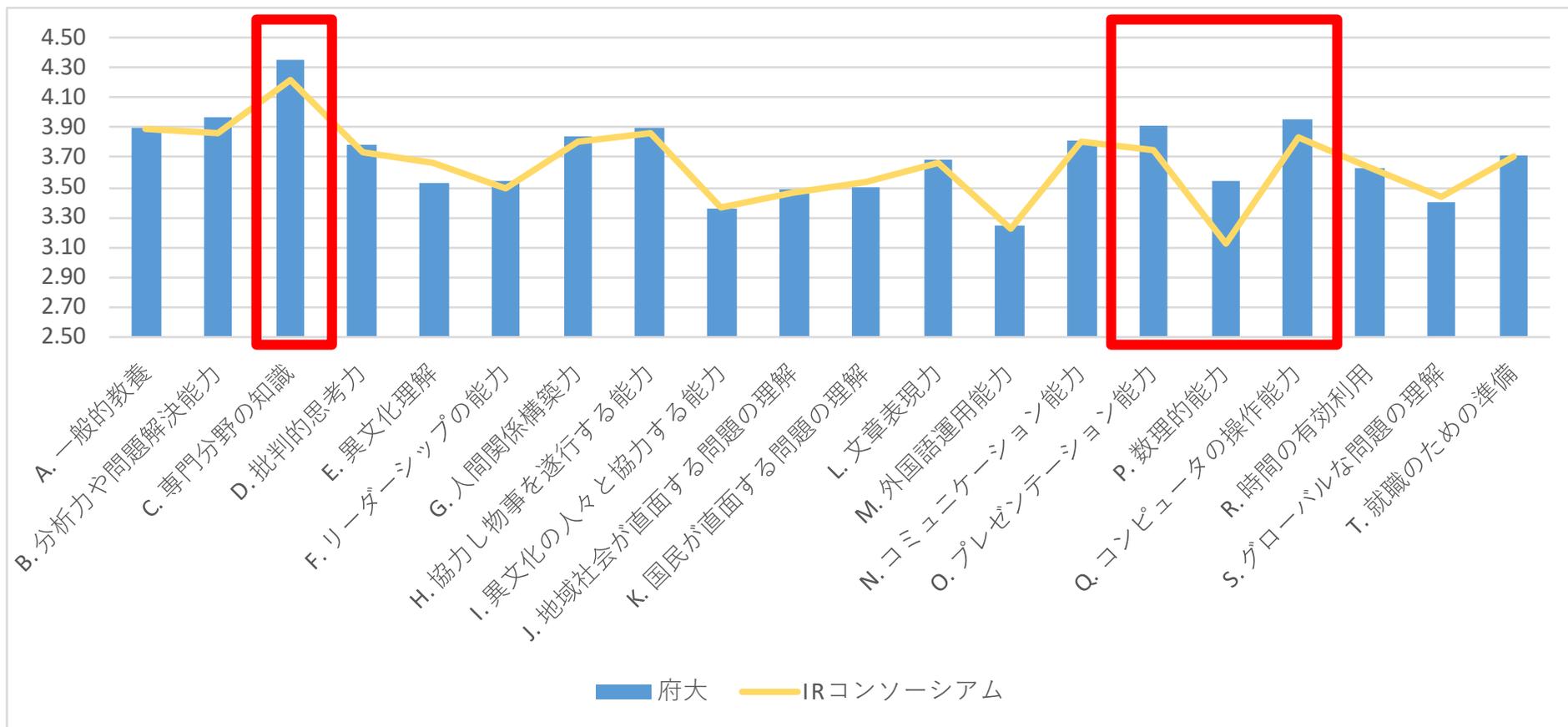
- 一般的教養 分析力や問題解決能力 専門分野の知識 批判的思考力 異文化理解 地域社会が直面する問題の理解 国民が直面する問題の理解 文章表現力 外国語運用能力 数理的な能力 コンピュータの操作能力 グローバルな問題の理解

• コンピテンシーに関する項目

- リーダーシップの能力 人間関係構築力 協力し物事を遂行する能力 異文化の人々と協力する能力 コミュニケーション能力 プレゼンテーション能力 時間の有効利用 就職のための準備



能力の伸びに関する比較



専門分野の知識、プレゼン能力、数理的能力、コンピュータの操作能力に関して特に成長を実感している



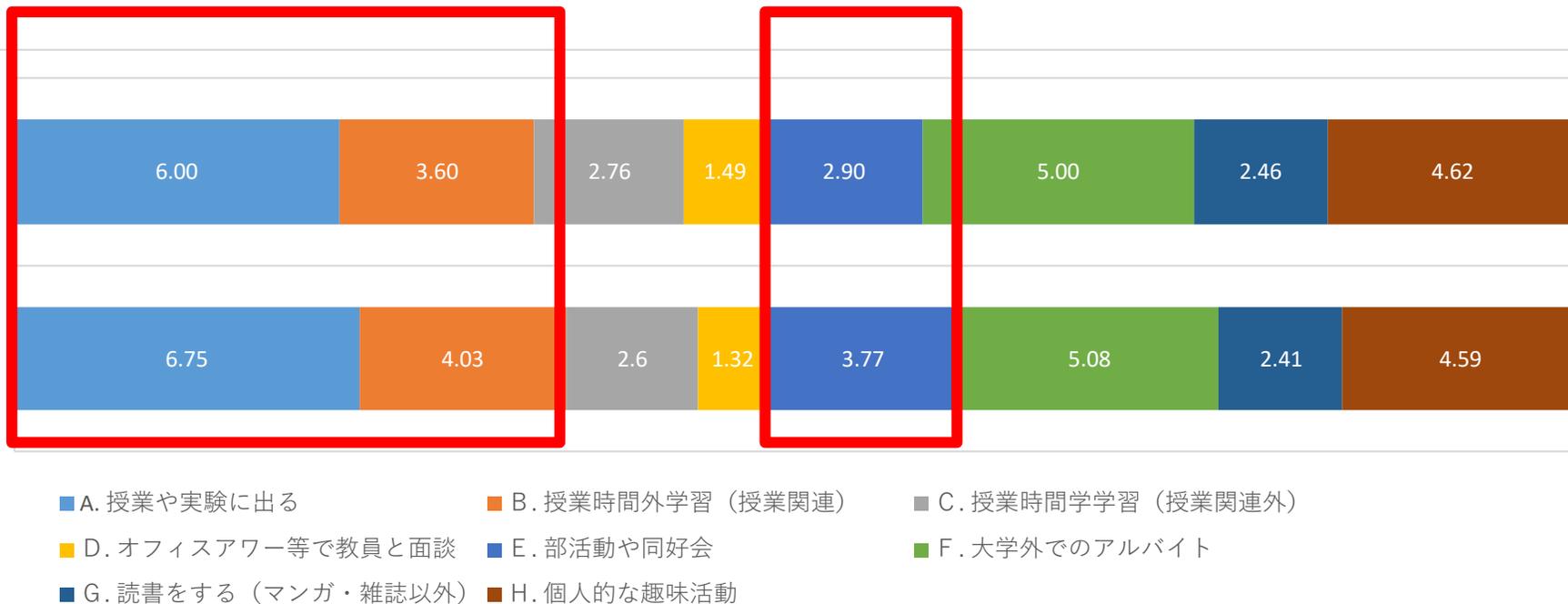
主に活用してきた指標

● Q9: 生活時間に関する項目

- (入学以来)、次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。
 - 【1.全然ない 2.1時間未満 3.1-2時間 4.3-5時間 5.6-10時間 6.11-15時間 7.16-20時間 8.20時間以上】
 - 授業や実験に出る
 - 授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする
 - 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
 - オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する
 - 部活動や同好会に参加する
 - 大学外でアルバイトや仕事をする
 - 読書をする(マンガ・雑誌を除く)
 - 個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)



生活時間に関する比較



授業、授業外での学習と、部活動に時間をかける傾向にある
(ただし単位制度からすると授業外学修時間は足りていない)

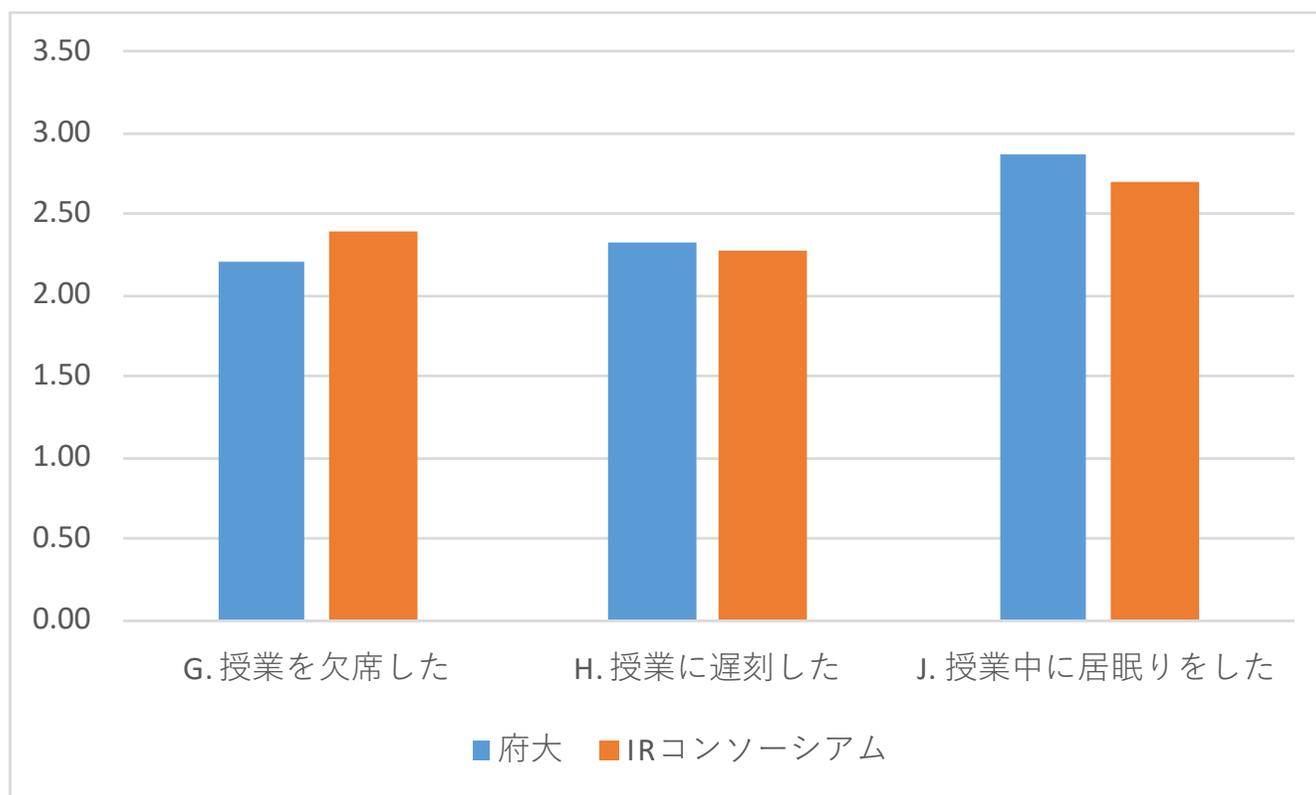


主に活用してきた指標

- **Q8: 学習態度に関する項目**
- 大学の授業や授業以外の学習に関して、次のようなことをどのくらい経験しましたか。
 - 【4.ひんぱんにした 3.ときどきした 2.あまりしなかった 1.まったくしなかった】
 - 授業を欠席した
 - 授業に遅刻した
 - 授業中に居眠りをした
 - 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした
 - 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



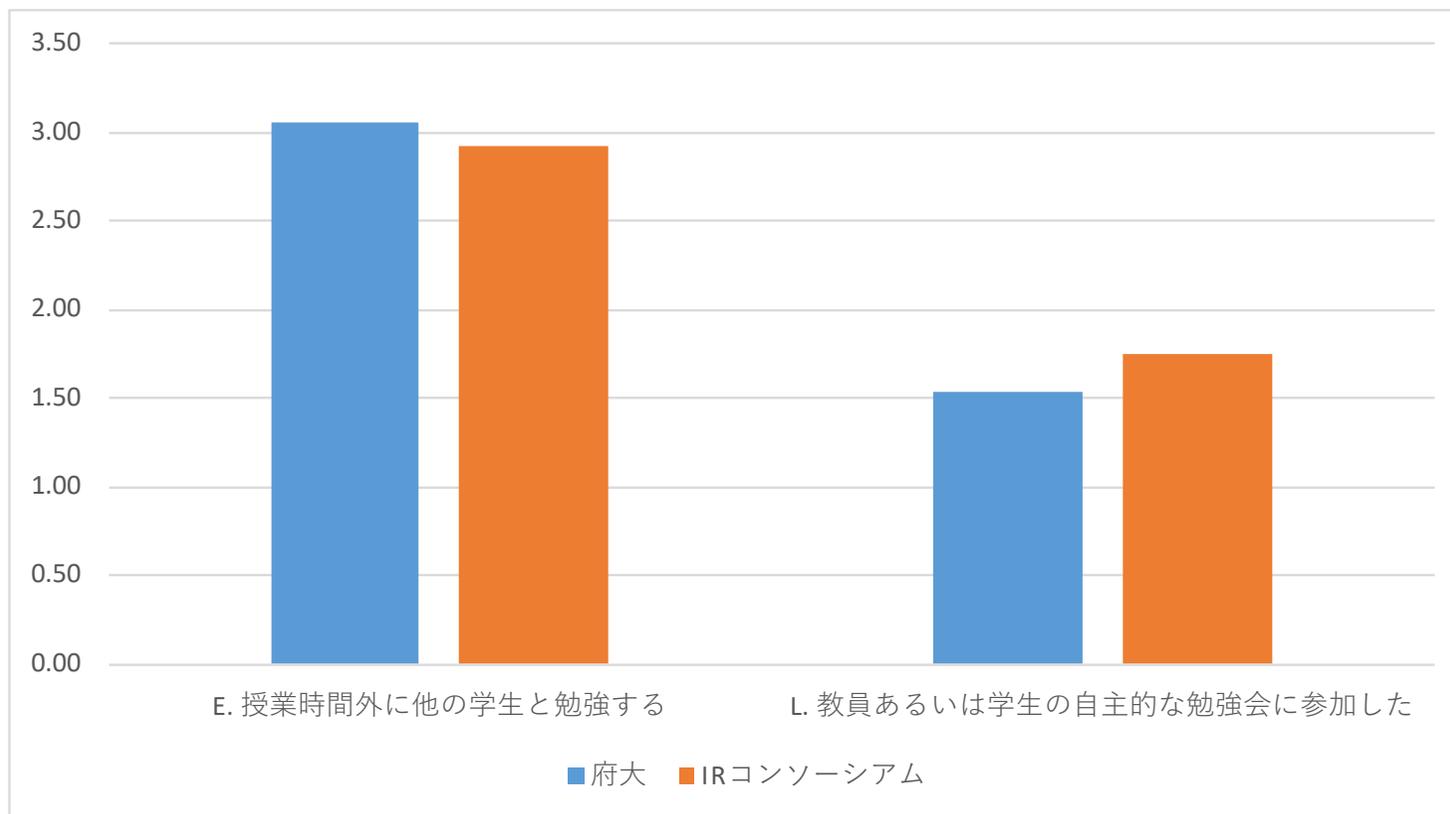
学習態度に関する比較1



授業にはしっかりと出席するが、遅刻、居眠りもほどほどにする



学習態度に関する比較2



授業に関連する学習は積極的に行う一方、自主的な学習には積極的ではない傾向



学生調査の結果から見える府大生の特徴1

- リテラシーに関して伸びを感じており、それらを表現する力 (i.e., プレゼンの力) も伸びていると感じている
- 授業に出席し、出された課題にも取り組む
- 部活動に時間をかける
- 自主的な学習に対してはそれほど積極的ではない
- ほどほどに手を抜く



主に活用してきた指標

Q16:教育・学習環境への満足感に関する項目

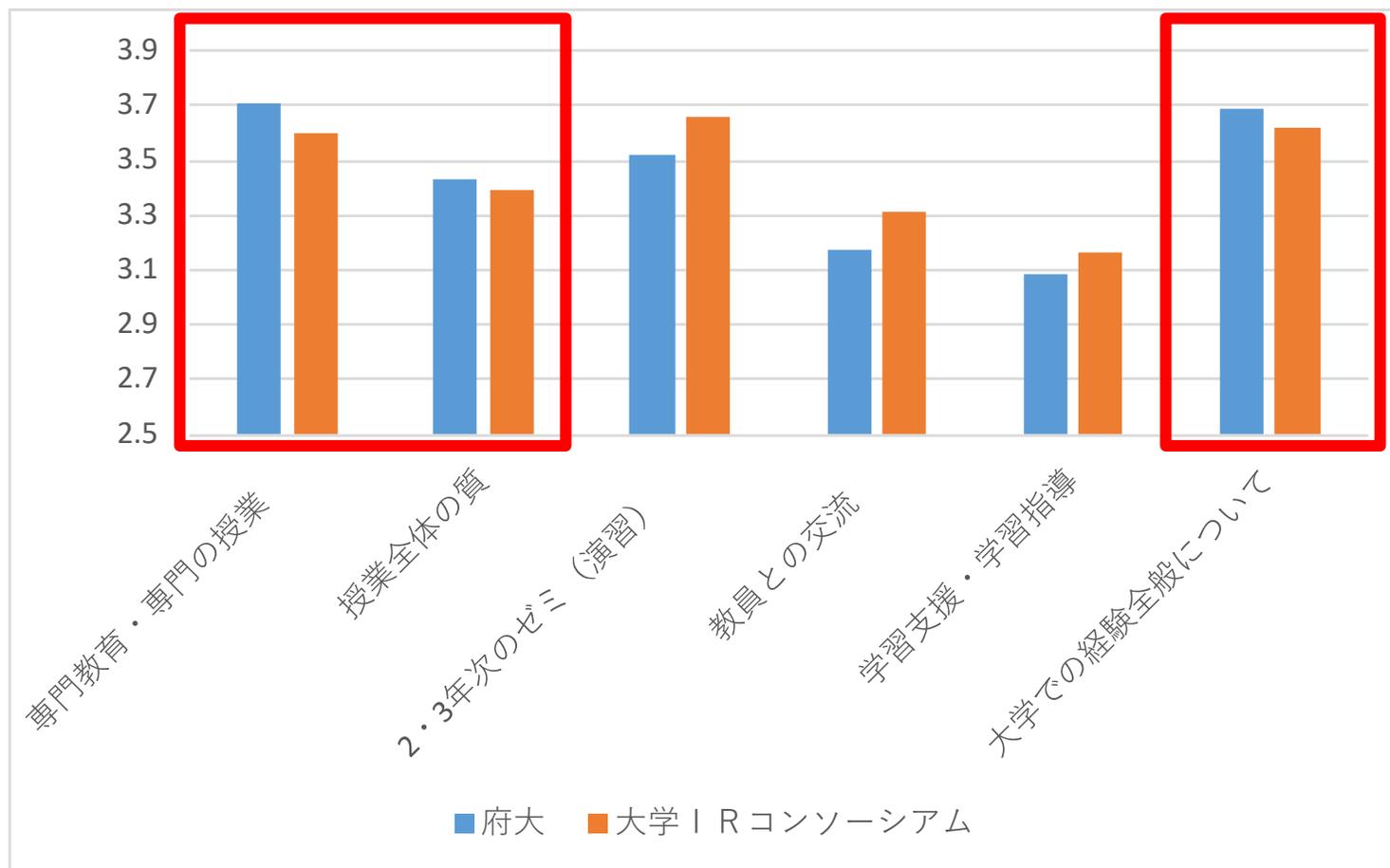
本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

• 【5.とても満足 4.満足 3.どちらでもない 2.不満 1.とても不満】

- 専門教育・専門の授業
- 2・3年次のゼミ(演習)
- 授業全体の質
- 教員との交流
- 学習支援・学習指導



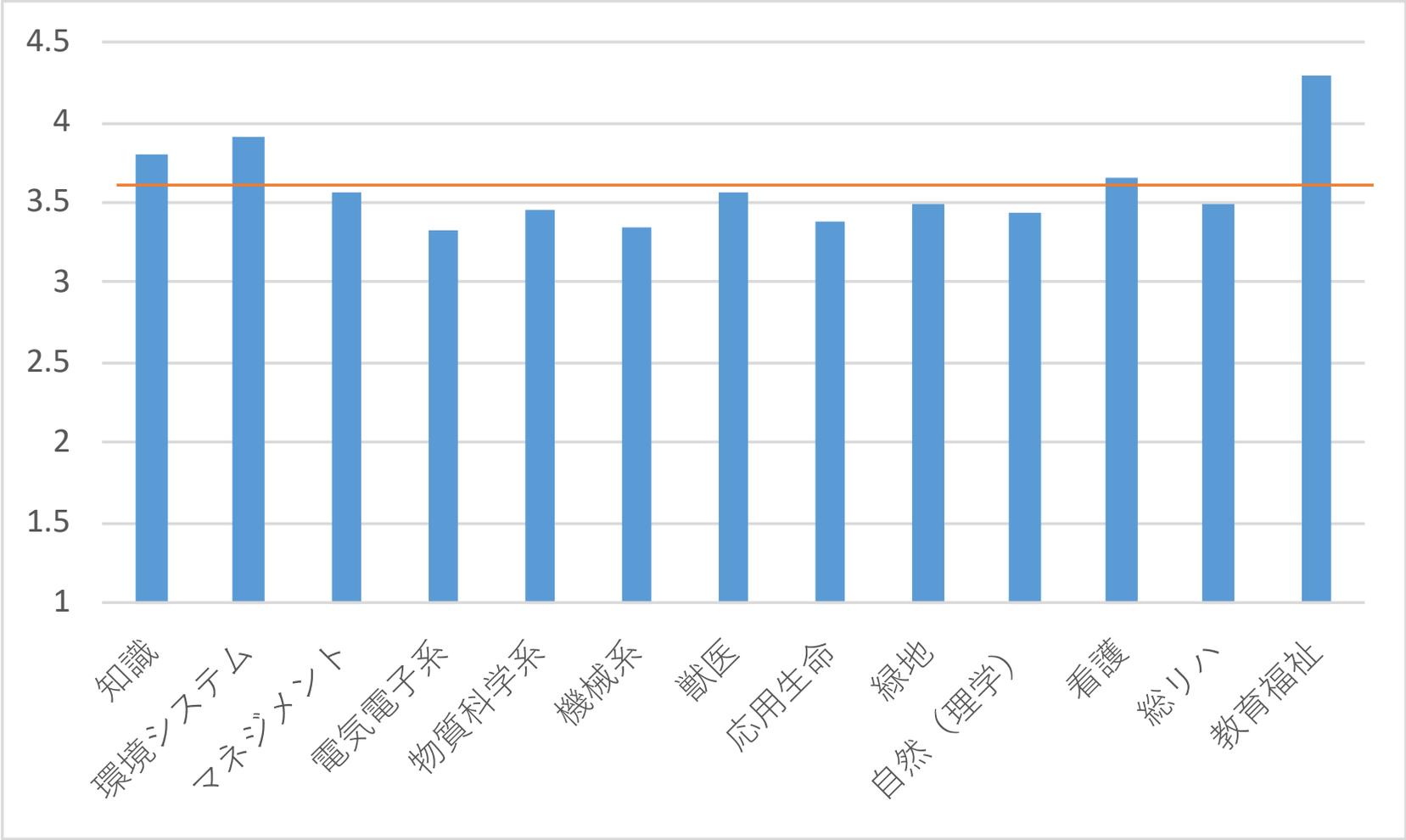
満足感に関する比較



専門科目や授業全体の質には満足している一方、個別の学習指導や教員との関わりについての満足感はそれほど高くない



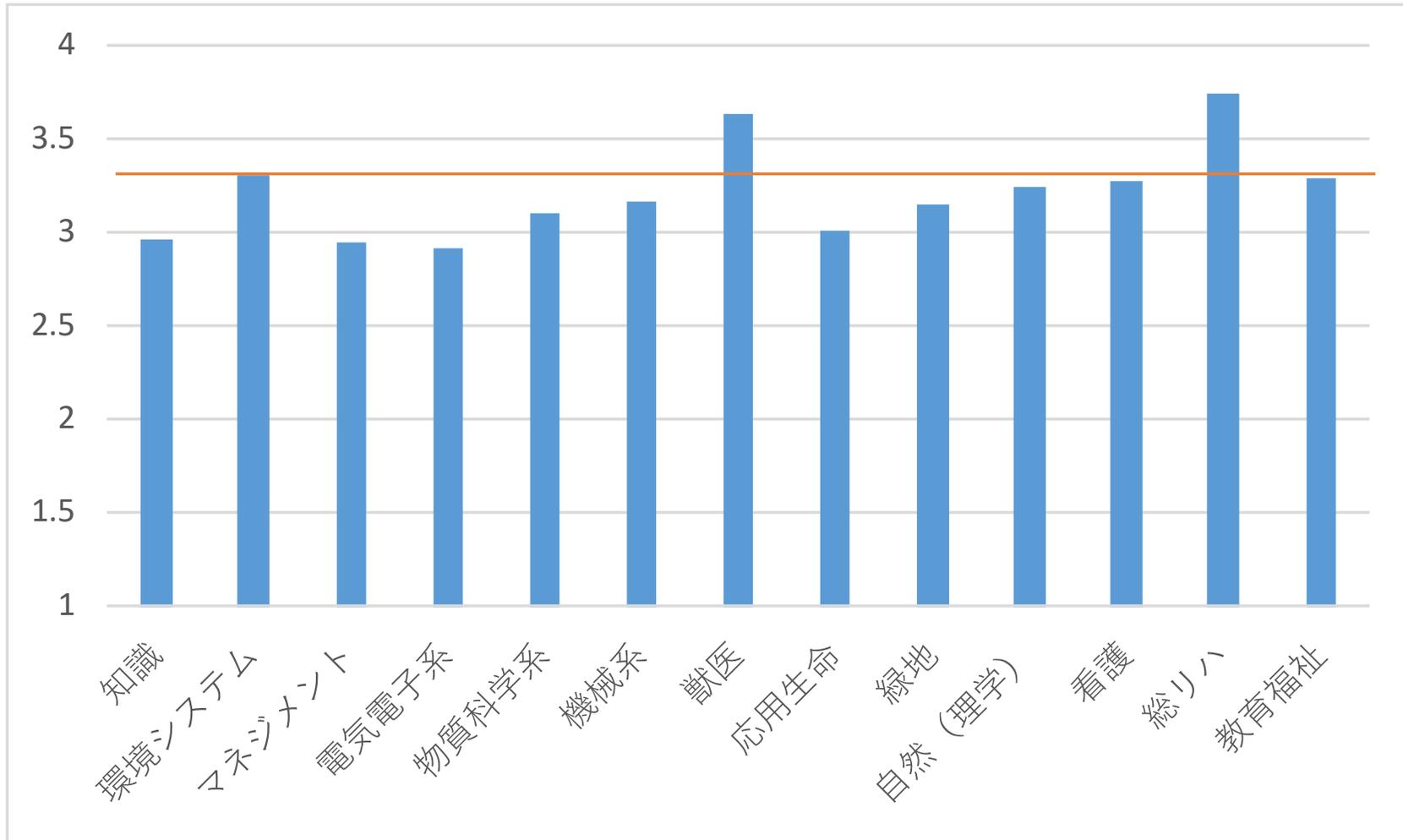
2・3年次のゼミに関する満足感(学類別)



* 赤線はIRコンソーシアムの平均値



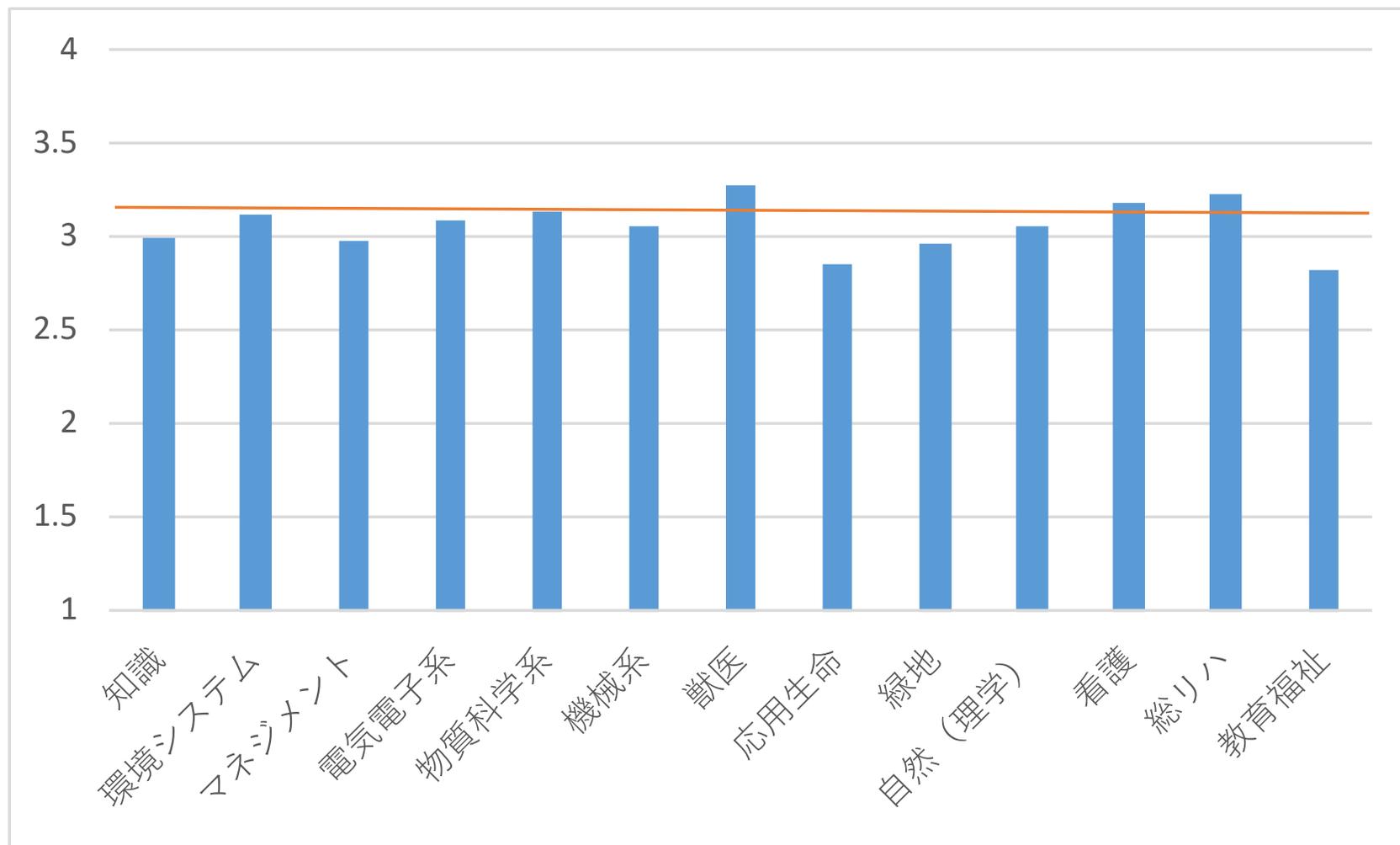
教員との交流に関する満足感(学類別)



* 赤線はIRコンソーシアムの平均値



個別の学習支援・学習指導に関する満足感(学類別)



* 赤線はIRコンソーシアムの平均値



学生調査の結果から見える府大生の特徴2

- 大学生生活や授業全般に関しては満足している傾向にある
- 教員との交流や個別の学習支援に関する満足感は学類によってばらつきがある
- 全体的にST比率 (i.e., 教員一人に対する学生数の割合) が低い学類ほど、教員との関係や学習支援への満足感が高い傾向

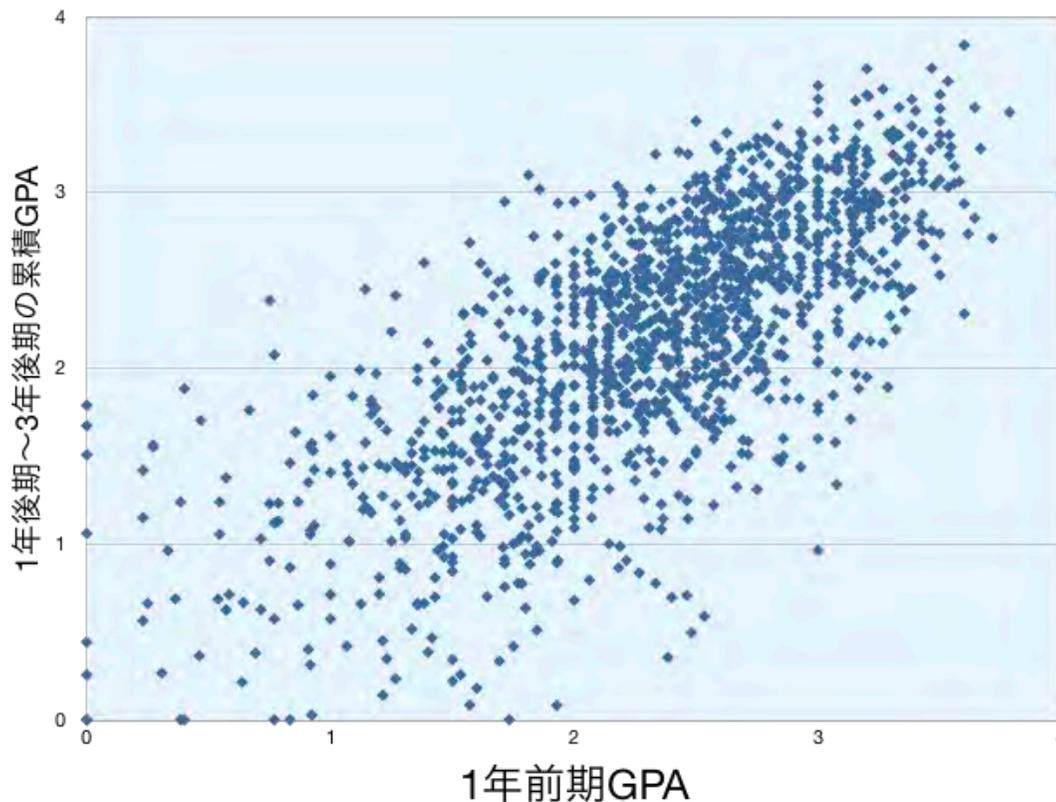


GPA・学生調査の分析事例



GPA(成績)は1年前期からほとんど変わらない

1年前期のGPAと累積GPA(1年後期~3年後期)の
散布図

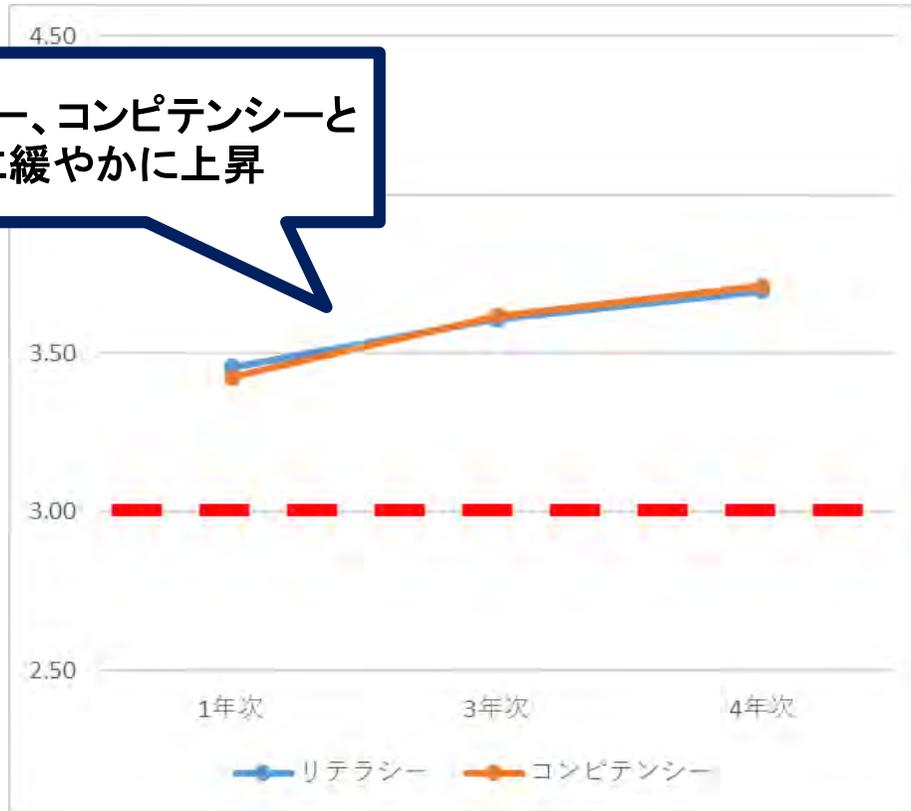


2005年度入学生

n=1468

相関係数=0.72

1年次から4年次における能力成長感の変化(全体)



切片、傾きの平均値と分散

	平均値	分散
切片		
リテラシー	3.42 ^{***}	.13 ^{***}
コンピテンシー	3.45 ^{***}	.09 ^{***}
傾き		
リテラシー	.10 ^{***}	.01 ^{***}
コンピテンシー	.08 ^{***}	.01 ^{***}

*** $p < .001$

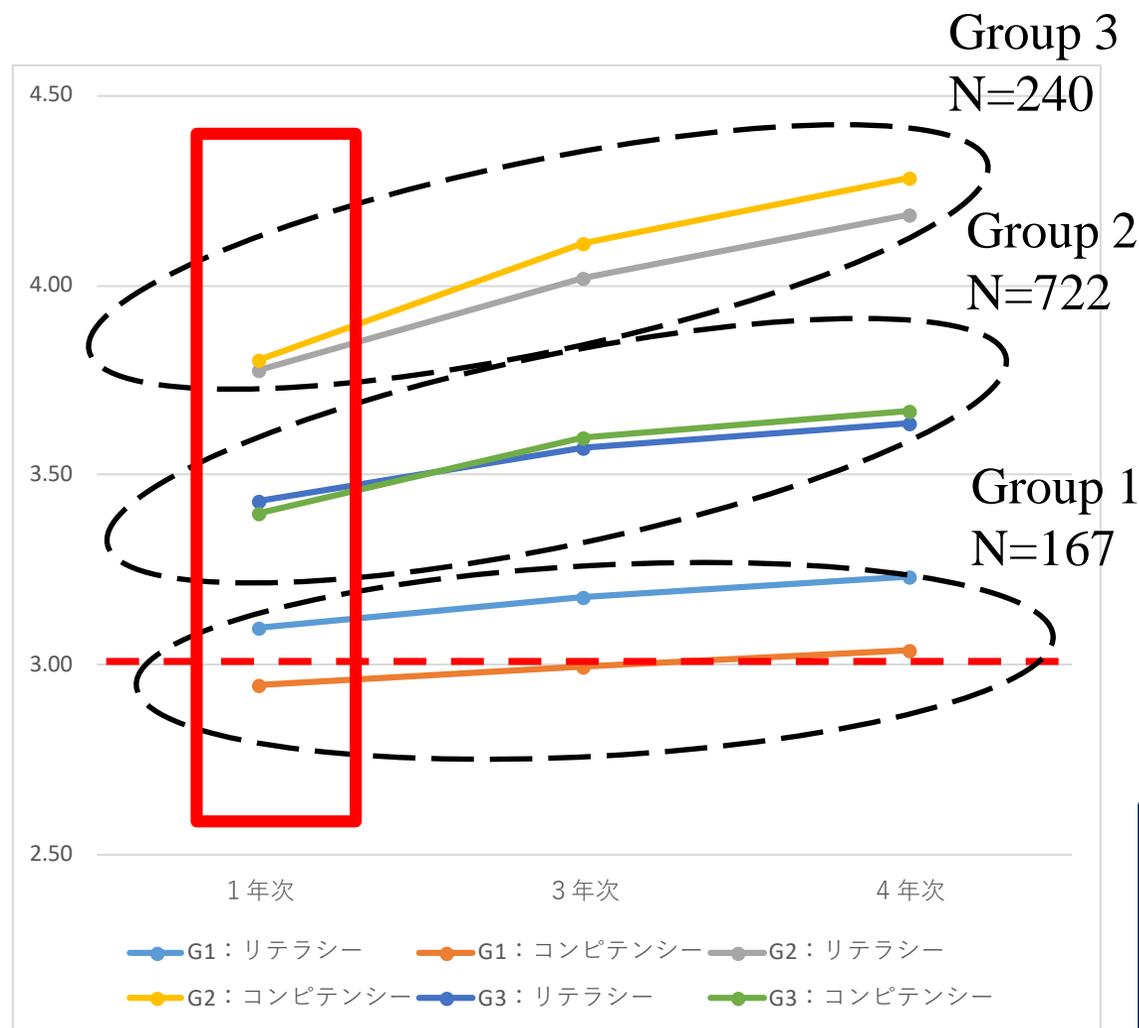
リテラシー
 $X^2(1)=.313$
 CFI=1.00, RMSEA=.000

コンピテンシー
 $X^2(1)=.754$
 CFI=1.00, RMSEA=.000

- ・全体的に1年次から4年次にかけてリテラシー・コンピテンシーが伸びていると感じている
- ・能力の変化には個人差がある



1年次から4年次にかけての能力の獲得感の変化(個人差)



各Groupのリテラシー、コンピテンシーの平均値(切片・傾き)

	Group1	Group2	Group3
リテラシー 平均値(切片)	3.12 ^{***}	3.43 ^{***}	3.75 ^{***}
リテラシー 平均値(傾き)	.04 ^{**}	.07 ^{***}	.13 ^{***}
コンピテンシー 平均値(切片)	2.98 ^{***}	3.41 ^{***}	3.79 ^{***}
コンピテンシー 平均値(傾き)	.04 [*]	.09 ^{***}	.16 ^{***}

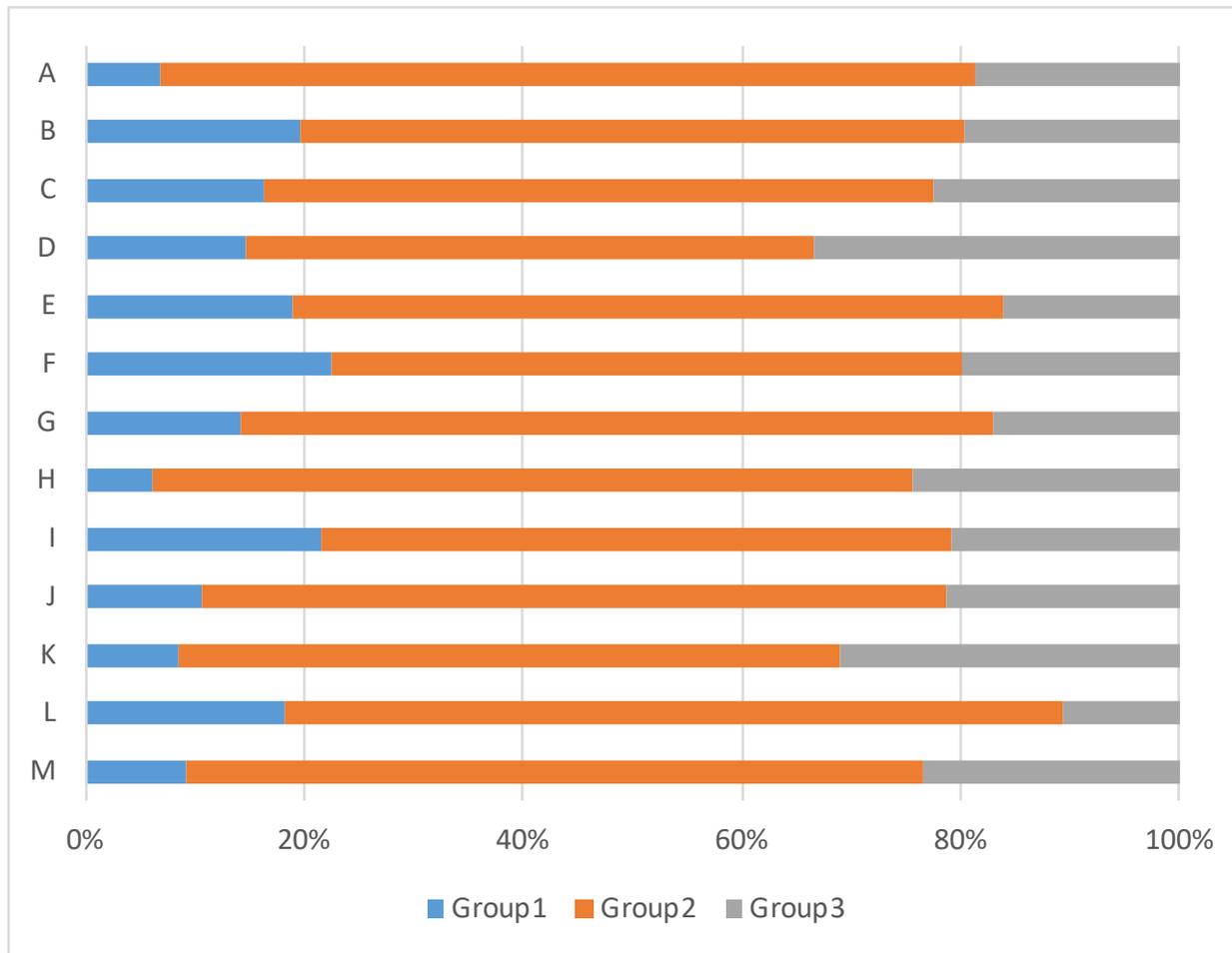
BIC = 6356.576; Entropy = 0.765

*** $p < .001$

初期値の段階(1年次10月)で差がでており、その差は卒業次まで続く傾向



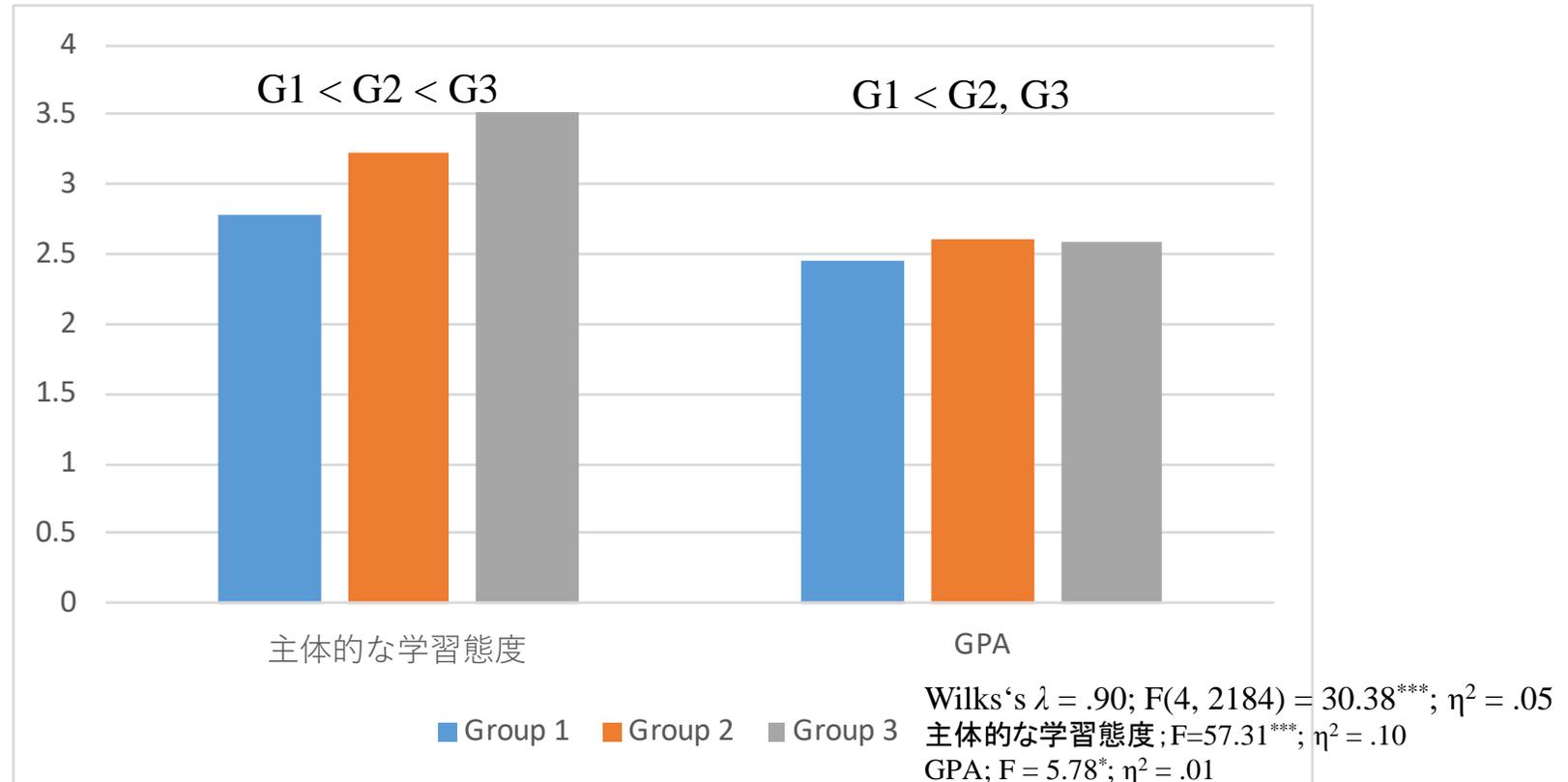
学生タイプの学類ごとの割合



Group 1 の学生は特定の学類に多いというよりも全体的に1～2割程度いる



各学生タイプの特徴



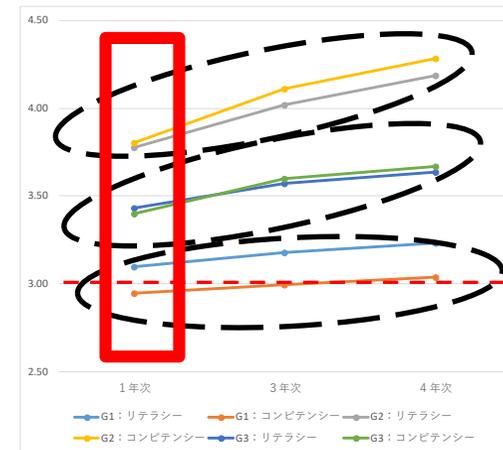
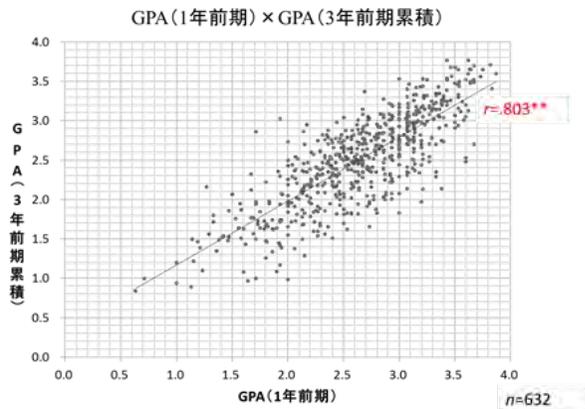
Group 1はGroup 2, 3と比べて学習態度は積極的ではなく、GPAも低い傾向



GPA、学生調査の分析結果から

- 1年次前期の成績が後の成績に影響を及ぼす
- 1年次前期の成長感が後の成長感に影響を及ぼす

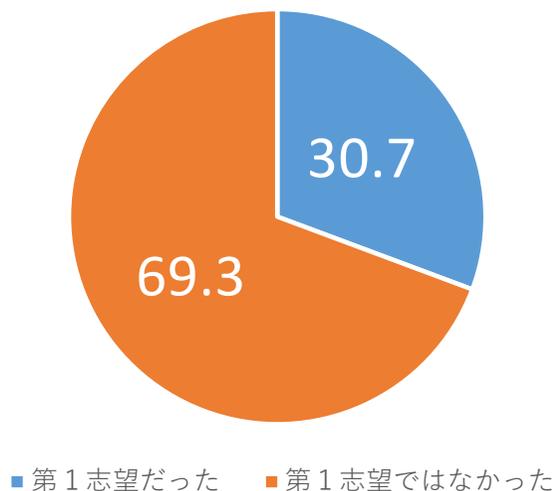
GPA(成績)は1年生から3年生にかけてほとんど変わらない



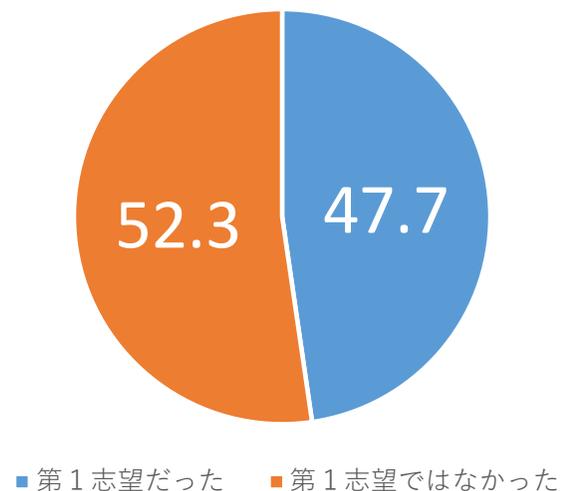
客観的指標、主観的指標ともに大学に入学してからの半年が学生の学びにとって重要である可能性を示唆

志望大学の中で本学は第1志望でしたか？

府大



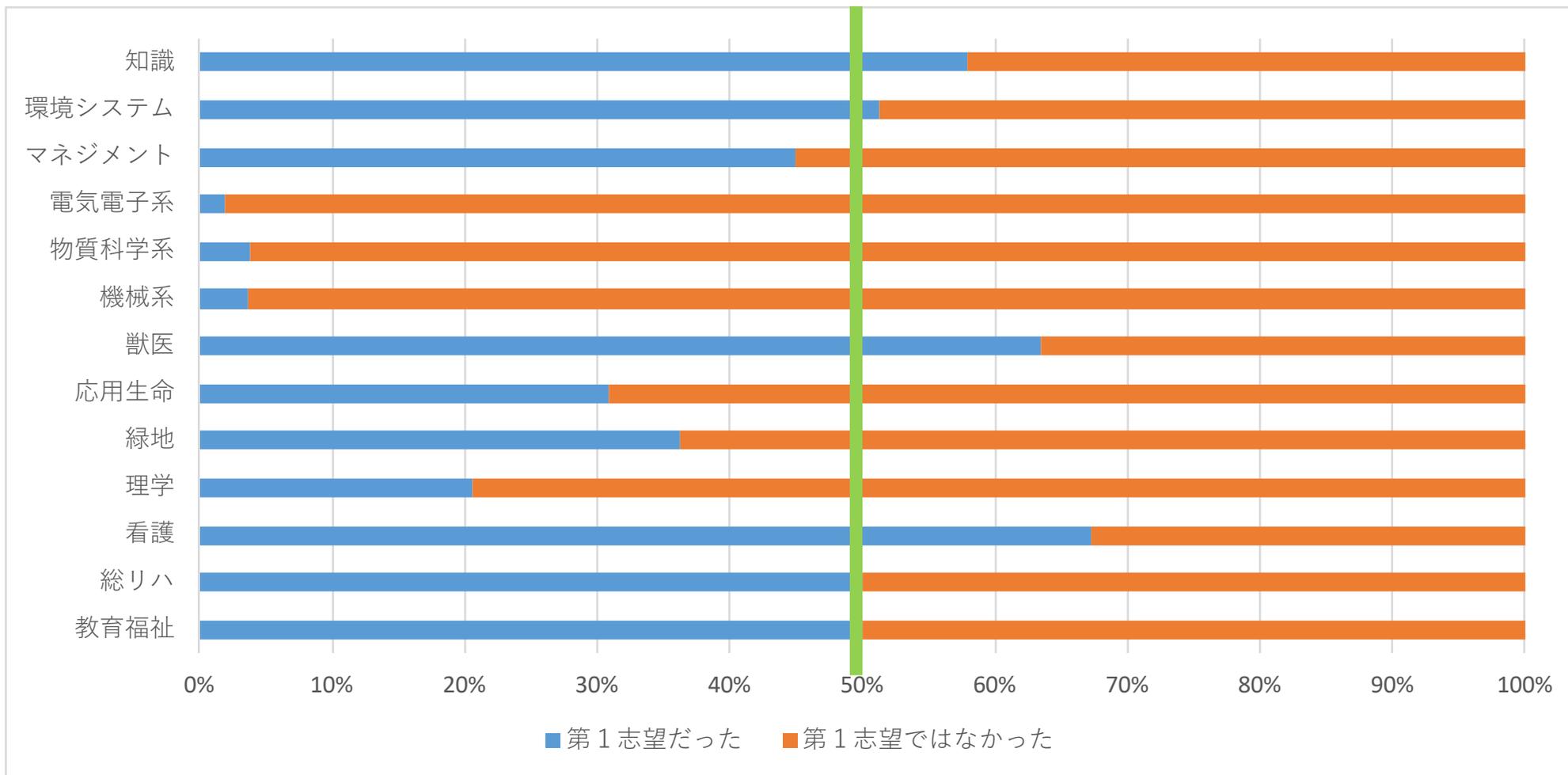
IRコンソーシアム



全体的に府大は第一志望での入学者の割合が少ない



志望大学の中で本学は第1志望でしたか？（学類別）



学生の入学時のモチベーションは学類によって(かなり)バラツキがある



初年次ゼミナール

目的

高校までの受動的に学ぶ態度(知識の獲得)から大学での能動的な学び(知識の活用)への転換を図る

- テーマ:担当教員が自由に設定
- クラス編成:全学域の学生を混在させるように工夫
- アクティブラーニングの導入:学生同士のディスカッション、プレゼンテーションを授業に積極的に導入
- 授業外学修時間の強調:授業外で取り組む課題を徹底
- 1年次前期、2単位(全学必修科目)





Thank you for your attention!

kai.hatano@las.osakafu-u.ac.jp